

百人一首 上の句と下の句を線で結びましょう ⑦

夜をこめて
鳥の空音は
謀るとも

花の色は
移りにけりな
いたづらに

いにしへの
奈良の都の
八重桜

嘆けとて
月やは物を
思はする

これやこの
行くも帰るも
別れては

村雨の
露もまだ干ぬ
真木の葉に

かこち顔なる
わが涙かな

よに逢坂の
関はゆるさじ

知るも知らぬも
逢坂の関

わが身世にふる
ながめせしまに

霧立ちのぼる
秋の夕暮れ

けふ九重に
にほひぬるかな